

S S T K 社会福祉法人 埼玉のぞみの園

# 法人だより

Na. 4

編集 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 深谷市本田 3343 編集責任者 理事長 山崎 勝  
発行 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒332-0011 川口市元郷 1-10-13

定価1部 50円

## 恒例の第28回 法人レクリエーション!

深谷市立たんぼ作業所 長崎 宏士

6月9日(土)恒例の法人レクが、法人内全事業所が参加し、実施されました。  
実施種目は4種目。一番盛り上がったのは『くわえてGO!』でパンやお菓子を口や手で取り、明るい表情でゴールしました。  
参加者は総勢約二百三十名。保護者の方も大勢参加していた。法人が一体となり交流ができました。有難うございます。



(深谷ビッグタートルで行われた法人レク)

## 法人主催 リスクマネジメント研修!

法人本部 橋本 昌教

7月14日(土)に法人本部主催の研修会を行いました。テーマは「危機管理」です。(株)インタリリスク総研から講師を招き、近隣の3施設の参加4名を含め計32名が受講しました。  
当法人では、各事業所において以前から、「ヒヤリハット」活動を続けていますが、この研修で法人職員に改めて「ヒヤリ

ハット」・「リスクマネジメント」の大切さを認識してもらうために開催しました。  
法人本部が研修会を主催するメリットは、各事業所の職員に共通した認識をもってもらえることです。今後も、法人本部では職員が法人の一員として、共通認識をもてるよう研修会を行っていきたくと考えております。

## 「もしも…」に備えて 緊急捜索訓練!

法人本部 橋本 昌教

6月15日(金)、「のぞみ深谷」のデイサービス利用者が行方不明になった場合を想定して、緊急捜索訓練を行いました。  
法人内の事業所から15名の職員が集まり、行方不明者の役割をした職員を捜索しました。  
行方不明者を出さないことが一番重要なことですが、もしもの場合に備えて準備をすること

も必要です。  
今回の訓練では、参加した職員から多くの意見がでました。課題も多く見つけられ、充実した訓練でした。しかし、法人の各事業所が行方不明者を出さないよう注意深く支援を行うことの方が重要であると再認識させられた訓練でした。

### 後援会役員総会

下記により開催されました。  
6月28日(木)、第2春日園にて後援会役員総会が開催され、平成23年度決算、平成24年度予算が承認されました。23年度は会費収入723,000円(192件)でした。

左記の方から  
ご寄附をいただきました。  
**須賀 経子 様**  
(熊谷市拾六間)  
誠にありがとうございます。

### 春日園夏祭り

今年も やります!  
平成24年8月25日(土)  
午後4時~午後7時  
バザー、模擬店、イベント等  
みんな集まれ!

【編集後記】 今号は昨年度事業報告がテーマ。この紙面も昨年創刊した。毎日続く暑い日は半端じゃない。熱中症も半端じゃない。ロンドン五輪もやっている。新任職員からも元気をもらった。無理せず夏を乗り切り、楽しみたい。 y

法人のホームページできました。「埼玉のぞみの園」、又は、<http://nosominosono.jp> で検索!

【法人本部連絡先】 〒369-1105 深谷市本田 3343 番地  
(電話) 048-594-6511 番 (FAX) 048-594-6512 番



## 平成23年度法人事業報告から 課題は、若年層の育成!

埼玉のぞみの園 理事長 山崎 勝

このコーナーは、平成23年度法人事業報告書から抜粋・要約したものです。



● 本部の稼働  
平成23年度は法人本部が稼働し、混乱しながらも新たな取り組みが少しずつ出てきているように感じる。最大のメリットは組織力を有効に使えば、その規模以上の成果が達成されるということである。

● 職員の高齢化  
一方で職員の高齢化も進みつつある中、若年層の育成が大きな課題として表出されつつあるように感じる。事業所によっては収支バランスを勤務年数の伸長により、大きくそがれる要因にもなっている様子がうかがえる。

● 魅力ある施設づくり  
さらに、利用者数が増え、利用しない事業所においては、利用者から選ばれる魅力ある施設

● 総合支援法へ  
制度的には総合福祉法が成立すると思いきや、総合支援法へと方向付けが変わった今日、基本は障害者自立支援法の修正であり、現状のサービスを如何に利用者本位のサービスに構築していくかが問われてくることとなる。

● 職員の専門性に期待  
このことは一層職員の専門性に期待するところであり、福祉職と言える知識と経験を積んで欲しいと思うとともに、公共の負託にこたえられるよう努力していく必要があると考える。

この4号は、平成23年度の法人、事業所の事業報告(抜粋・要約)五人の新人職員の紹介などの特集号です。

### 新たなサービス “相談支援事業” 始まる...

この4月から相談支援の充実を目指した新サービスが始まりました。当法人では、のぞみ深谷が相談支援を行っており、6月に入ってから少しずつではありますが、ご利用希望の方が出てきています。  
今回の最大の特徴は「計画相談支援」ではないでしょうか。「平成26年度までに障害福祉サービスの利用を希望する障害者・障害児すべての方に、サービス等利用計画が必要」(平成24年2月、厚労省障害保険福祉部)となります。「サービス等利用計画?」聞き慣れない言葉でなんとなく面倒だと思われるかもしれませんが、豊富な知識を持つ相談支援員に相談してからサービス利用ができることで、利用前の不安が軽減されたり、利用したサービスに不満があった場合などは、相談支援員に再度、相談できるなどのメリットがあります。  
その他にも、「地域移行・定着」などのサービスがあり、ご利用者にとって充実したサービスになるのではと思います。詳しくはのぞみ深谷までご連絡ください。(本部 橋本)



# 高齢化による機能低下が課題に

春日園・支援課長 鯨井 昭二

利用者の平均年齢55歳を迎え、障害や年齢からくる身体機能の個人差も大きくなり、今まで自立していた毎日の日常生活に支援・介助が必要となるケースが増えてきた。

特に、洗濯や身の回りの清掃、更に、健康の維持管理の面で支援等が今まで以上に必要とされた。又、性別、食事等健康管理の強化

も視野に入れる必要がでてきた。機能低下や年齢からくる衰えを利用者本人が意識し始め、機能訓練も21名が自発的に取り組んでいる。

夜間の生活支援に関しては、今後、快眠環境作り・衛生管理等を踏まえ、職員・利用者共に学んでいく必要性を強く感じている。

# はる工房とトマトハウス、相次ぎ開設

第2春日園・授産課長 松葉 正枝

授産事業全般は、年間総収入五千三百三十万円・総工賃支給額千二百三十八万円・平均工賃月額二万四千円(就労継続B)で前年度を下回った。

新規作業場として、はる工房を立ち上げ、広さ千八十八㎡のトマトハウスを新設し、事業を稼働した。就労移行支援では、非常勤職員として1名がパート雇用とな

り、他に2名が実習終了後、パート雇用契約となった。

トイレについては、利用者の機能低下や手すりの設置状況から、「使用しにくい」との意見も上がり、全面的な改修工事を行なった。



# 「外出援助」は、11%増…

地域支援サービスのぞみ所長 大島 一哉

## ① 「外出援助」サービス

外出援助の年間利用時間は前年度比11%増、年間利用件数は前年度比5%増であった。

## ② 「送迎」サービス

買物、通院、特別支援学校への迎え、デイサービス終了後の送迎等で利用している。年間利用時間は前年度比0.6%増、年間利用件数は昨年同様であった。

## ③ 「一時預かり」サービス

児童の利用が多い。年間利用時間は前年度比18%減、年間利用件数は11%減であった。

## ④ 「介護派遣」サービス

居宅介護支援事業の補足的な利用が多く、清掃・食事作りなどを行っている。年間利用時間は前年比6%減、年間利用件数は6%増であった。

# 避難訓練、救命救急、研修にも注力

のぞみの園ホーム 松崎 春実

KASUGAホームに自動火災通報装置の取り付けを行ない、利用者の通報訓練・避難訓練を年2回行なった。また深谷消防署による救命救命講習を、4ホームの職員

12名が受講した。

毎月一回のホーム会議を行い、世話人と支援員の情報交換や意見交換を行った。また、意識向上を図るため研修参加も行った。

# 最も新しい五人の新任職員！

法人には今、多くの新任職員が職に就いています。この内、就職して一年程度の新任正規職員は5人…

# より良い環境整備、除染も実施

深谷市立たんぼ作業所長 榎澤 正範

建物の改修工事が4ヶ月にわたって深谷市により実施され、外壁塗装、トイレ改修、屋上雨漏り補修、配膳室天井補修が行われ、より良い環境が整えられた。

正規、臨時職員、各1名を採用し、職員不足による処遇の低下が軽減された。

今回の震災に関連して深谷市による敷地内の放射能調査で、基準値を超える場所が2箇所あった

が、表土を取り除く等の除染作業により汚染が解消された。

生活介護事業では、利用者が達成感を感じられるようなメニューの提供を心がけ、インフルエンザ予防接種費用の一部を施設負担した。

就労継続支援事業では、作業収入は前年度比10%減の五百八十三万円、平均工賃は3%減の月額一万二千円であった。

# 生活介護事業開設、生産も向上

妻沼つくし作業所長 鎌田 仁孝

新しい建屋に移転し、生活介護事業開設して一年が経過した。試行錯誤しながら、多機能型事業に相応しい形態ができた。

就労継続事業では、軽作業の生産高が予想を上回り、ウエス作業も生産が安定、リサイクルと農作業も売り上げが上昇した。生活介護事業は月ごとの目標

を立案して実施した。多くの行事への参加、障害者作品展への出展、季節の小物の制作などを始めた。

## ちょっといい話

つくし作業所の利用者に支払われる工賃(一人平均月額)は就労支援事業B型について平成23年度10,320円となり、初めて1万円を超えました。(前年は9,811円)工賃1万円は作業所にとって大きな壁。一つ壁を越えた今、さらに上が見えてきたような…

春日園支援員。県南で永く小学校教諭を経験。その後高齢者福祉に従事し介護福祉士資格を取得。障害児教育を志した若いころの想いに再チャレンジすべく現職に。「初めの予想に反して皆さん強い。自分は何もできていないのではないかと感じた」と言う。自分の気持ちに謙虚で忠実。だからこそ相手の強さと弱さを思いやることができるのかも。

● **高橋 朋子** (平成23年9月)

たんぼぼ作業所支援員。好きな衣料服飾関係の職に就いていたが特別支援学校勤務の親の影響もあり現職に。重度重複障害のある利用者を担当。「今は知識と経験を積む時。仕事は責任も伴うがやりがいもある。たんぼぼに来たいと思ってもらえるような支援内容を考えたい。」若さ弾ける笑顔、歯切れの良い語り口からは逞しさと行動力を感じる。

● **深田 幸則** (平成23年5月)

春日園支援員。介護福祉士、保育士資格を持ち、特別養護老人ホーム、保育園での就労経験もある。障害は初めて。「特養とは違うが、どちらも人の生活をみる仕事。今は支援の違いと個人の暮らしを見て、生活、環境、衛生などもっと介入したい。」と意欲的だ。即戦力として他職種での就労経験を生かし、多角的なアプローチもできる。将来は頼れるお姉様になる予感が。

● **細井 美由起** (平成24年4月)

春日園支援員。美容師の資格を持ち両親が経営する美容室の高齢者訪問美容で働いた経験から福祉に興味を持つ。「就職は全くの偶然。今の仕事は最高。転職して天職に就いた。レクの企画や掃除、修繕などいろいろやれて毎日同じ仕事がないのが楽しいし有難い。」静かで外連味のない自然な笑顔、仕事に対する真摯な態度、ストレートな想いの披瀝には感服。

● **持田 和樹** (平成23年8月)

「若年職員のレベルアップ」が課題の法人にとって新任職員の活躍は大いに期待するところ。最も新しい5人の仕事への「思い」とは。( )は就業年月。  
★ 法人全体での正規職員数は48名。この内、この5人を含めた新任職員の就業年数別の人数は、  
就業2年未満が 6名  
就業3年未満が 4名  
就業4年未満が 2名  
(平成24年7月現在)  
(なお非常勤も含む全職員は125名。)

春日園支援員。学生時代からボランティア活動やのぞみでのアルバイトを続け現職に。資格が生かせる福祉用具担当。「利用者に関わるようになったのが楽しいし、やりがいを感じる。性格は不器用。熱くなると我を忘れるところがある。」一見穏やかで優しく繊細な印象もあるが、眼差しは若者らしく、内に秘めた熱い思いを発している。

● **内田 雅文** (平成24年4月)